

◆宣教研究所委員会◆

『宣教の未来2』論文の中間報告を共有

宣教研究所委員会の第3回委員会が1月22日にオンライン（完全リモート）で行われた。委員会には全委員が出席した。他に道家紀一幹事・新名知子職員が陪席。主な議事は、本年秋に発行予定の論考集『宣教の未来2』（仮題）に収録される5本の研究についての中間報告であった。研究委嘱をおこなった5名の研究員からの中間報告を共有した。

「論文骨子」と銘打たれた中間報告は、平均で2ページ前後のもので、研究によっては構成が決まっているものも多かった。全研究員から「骨子」が届いたことを委員会として喜んでいいる。なお、一つの研究について、論文テーマ変更の申し出があった（委員を兼ねている神保望研究員の論文テーマを「教会合同としての宣教の未来」とすることを委員会は了承した）。神学教師・教務教師の研究と教会担任教師の研究には必ずから性格の違いもあり、各委員はそのことを踏まえて感想を述べ、それぞれが担当する各研究員に伝えることとなった。一方で論文としてのアカデミックな性格を、他方で教団内外での議論に資する内容も持ち合わせていないとしないという、本研究の独特の性格に合った論考集になるか、注目される。

なお印刷・発行に伴う費用やその他の費用で委員会費以外の経費の財源確保について、網中彰子総幹事の判断を仰ぐ必要があることを確認した。

次回委員会は、提出された論文（6月末締め切り）を各自が読んだ上で集まる前提で、7月29日にオンラインで行う。

（上田 彰報）

◆予算決算委員会◆

第2次補正予算を承認

第4回予算決算委員会が1月26日に教団会議室で行われた。出席者7名。はじめに第3回予算決算委員会議事録案の件、第3回常任予算決算委員会議事録案の件を承認した。次に、カナダプロジェクト（カナダ合同）について、この工事に伴って、アスベストの処理費用が大きいことを確認した上で、この支出を承認した。

次に、2023年度第2次補正予算案（経常会計・収益会計）に関する件を扱った。《経常会計》事業活動収入第6款「繰入金収入」に、特別会計5「カナダプロジェクト」より、70万円を繰り入れる。事業活動収入は、2億7353万円。《収益事業会計》投資活動収入に、「出版局長期貸付金回収収入」の134万円を計上。協議の結果、2023年度第2次補正予算案（経常会計・収益会計）を承認した。

次に、第42総会期2回全国財務委員長会議に関する件を扱い、主題は教区形成における財政の課題」とした。この会議の日程は9月24、25日とし、参加費は3万円（対面での参加者一人につき）にすることを決めた。

（田村毅朗報）

◆教師委員会◆

東北教区からの戒規適用申請を受理

第4回教師委員会が1月29日に教団会議室で行われた。古旗誠委員長による開会祈禱ののち、議事日程を変更して内城恵委員（羽咋教会）より能登半島地震について現状報告があった。輪島教会、七尾教会、七尾幼稚園、富来伝道所などの被災状況、インフラ状況、避難所の状況などが伝えられ、教師委員会の参加者一同が被災した教会や人々のために祈りを合わせた。

次年度の「新任教師オリエンテーション」について検討し、講演Iのテーマは前回と同じく「伝道を共に担う教団の教師」となった。講演IIについては「教師のメンタルケアについて」となったのだが、今期の委員会で教師のメンタルが話題になることが多く、そうした議論を受けての決定である。「ハラスメントと教会」の講演については、少し時間を増やして開催されることになった。また、能登半島地震についての報告の時間を設けることにした。

東北教区より提出されていた戒規適用申請について、あらたに提出された資料を精査し採決に入った。その結果「受理」が決議され、3名の調査員が選出された。

以前より、無任所教師について教師委員会での確認しておく必要がある、との意見が出されていたため、今委員会で教団事務局より説明を受けた。それによると2024年1月現在で660名の無任所教師があり、その数は少しずつ増えているとのことであった。各学校問安についての報告のうち、兼清啓司委員による閉会祈禱をもって委員会を閉じた。

（兼清啓司報）



第4回教師委員会が1月29日に教団会議室で行われた。古旗誠委員長による開会祈禱ののち、議事日程を変更して内城恵委員（羽咋教会）より能登半島地震について現状報告があった。輪島教会、七尾教会、七尾幼稚園、富来伝道所などの被災状況、インフラ状況、避難所の状況などが伝えられ、教師委員会の参加者一同が被災した教会や人々のために祈りを合わせた。

次年度の「新任教師オリエンテーション」について検討し、講演Iのテーマは前回と同じく「伝道を共に担う教団の教師」となった。講演IIについては「教師のメンタルケアについて」となったのだが、今期の委員会で教師のメンタルが話題になることが多く、そうした議論を受けての決定である。「ハラスメントと教会」の講演については、少し時間を増やして開催されることになった。また、能登半島地震についての報告の時間を設けることにした。

東北教区より提出されていた戒規適用申請について、あらたに提出された資料を精査し採決に入った。その結果「受理」が決議され、3名の調査員が選出された。

以前より、無任所教師について教師委員会での確認しておく必要がある、との意見が出されていたため、今委員会で教団事務局より説明を受けた。それによると2024年1月現在で660名の無任所教師があり、その数は少しずつ増えているとのことであった。各学校問安についての報告のうち、兼清啓司委員による閉会祈禱をもって委員会を閉じた。

（兼清啓司報）

能登半島地震報告

大規模災害発生時、マニュアルに基づき迅速に対応



上、輪島教会牧師館
下、輪島教会会堂入口

2024年1月1日夕刻、能登半島地震が発生しました。中部教区は、発生と同時に、今年度10月常置委員会でも可決された「大規模災害発生時の初期・中期対応に関するマニュアル」に基づいて対応を始めました。このマニュアルは、東南海地震に備えて作成されたもので、「①教区は教師とその家族の心身を守ることを最優先とする。②教区は地区会長を通して被災教会・伝道所の被災状況を把握する」という2つの基本方針に基づき、発生から3日間の初期、3週間までの中期に分け、その対応を示したものです。

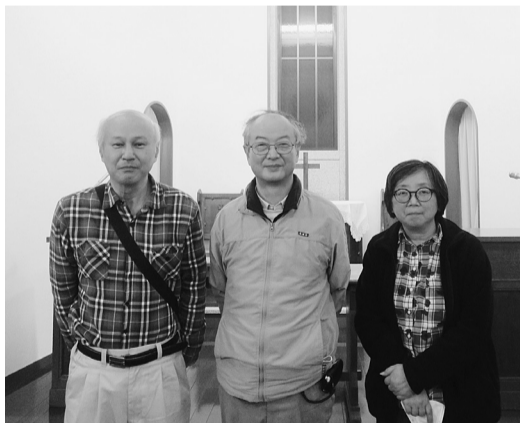
発生からしばらくして、地区会長を通して、情報が逐一、教区議長に届けられ、その内容を整理し、教区ホームページに発信しました。現代は、メールなどの通信手段があり、被災地自治体もまず、この通信の回復、スマホの充電を優先的に考えてくださり、迅速に情報が伝わり、その後の教区としての対応も取りやすかったといえます。

被災地から届けられる情報は、輪島の壊滅的な被害から始まり、教区・被災害者・関係施設の被害状況、牧師と家族・教会員の安否、電気・水道のライフライン、避難、地域支援情報など、日々刻々と変わる状況が次々と入ってきました。これを受けて、4日臨時常置委員会を開催。今後の対応について、4つを決議しました。①現地訪問と見舞金、②能登半島地震現地委員会（特別委員会）

の設置、③能登半島地震特別会計設置と募金（被災された教区内諸教会・伝道所等における教会活動と再建支援のため）を開始、④ボランティア希望者は、教団が計画する救援活動に参加していただくようアピール。教区は「教区内の被災教会・伝道所とその関係施設の支援」を目的とする。

17日、中部教区議長が七尾教会と羽咋教会を訪問。18日、議長と能登半島地震現地委員会が輪島教会を訪問。被害状況は教区ホームページをご覧下さい（<http://accj-chubu.com/>）。

被災教会はいずれも長い年月、地域に愛され、地道に伝道してきた教会です。教区として、復興に至るまでの期間、精神的な疲労も含め、どのような支援ができるかを思い巡らしながら、取り組んでゆきたいと思っております。皆さまのお祈りとお支えに感謝いたします。（加藤幹夫報／中部教区議長）



左から、加藤議長と七尾教会・釜戸達雄牧師夫妻

社会委員会

社会福祉施設援助金、6施設を支援

1月29日、教団33号室
およびオンラインによる
ハイブリッド形式で開催
された。



高承和委員による開会
礼拝の後、網中彰子総幹
事の挨拶を受け、委員会
を開始した。途中、柳谷
知之委員長は救援対策本
部との打ち合わせのため
中座し、その後能登半島
地震への対応について報
告された。

業務報告として、1月
29日現在、能登半島地
震緊急救援募金として
1254万6639円が
さきげられ、その内、教
会再建266万3850
円、人道支援124万
5897円、指定なし
863万6892円で
あった。台湾基督教長老
会(PCA)からの献金
は救援対策基金に繰り入
れた。なお、本基金より
すでに中部教区に送金し
たことも報告された。

日本キリスト教社会事
業同盟報告として、秋間
文子委員より「教団との
関係を考える会」第1回
会合が2023年11月17
日にオンラインにて開催
され、教団と同盟の関係
の歴史的経過の確認、教
団の現状報告、今後の関
係強化のための方策につ
いて話し合ったと報告さ
れた。

また、社会委員会が
協賛する形となった
2023年11月26日開
催の「世界AIDS・
DAY礼拝」に関して、
参加した委員から報告を
受けた。

主な協議事項は、
2023年度社会福祉施
設援助金の件と社会委員
長会議の件であった。社
会福祉施設援助金につ
いては、5教区より6件の
申請があり、推薦書およ
び各施設の活動内容と会
計報告を確認し、審議の
結果、1教区あたり10万

円を支援することとした
(2件申請のあった教区
は折半)。社会委員長会
議については、「災害へ
の備え」をテーマに一日
目は各教区の活動報告と
アンケート結果、能登半
島地震の報告を行い、二
日目に教団救援対策本部
の実働やACTジャパン
等の活動について報告し
てもらい、全体で災害へ
の備え、教区と教団の協
力、他団体との連携の可
能性を話し合うこととし
た。

(大塚啓子報)

事務局報

大城鉄也(無任所教師)

23年11月12日逝去、58
歳。福岡県生まれ。89年
関西学院大学卒業。94年
より00年まで早稲田教会
を牧会。

遺族は父・大城美知信
さん。
小栗善忠(隠退教師)

23年12月23日逝去、88
歳。東京都生まれ。60年
日本聖書神学校卒業。同
年より四谷新生、花巻、
原町田、神戸聖愛教会を
牧会し、13年隠退。
遺族は妻・小栗雅子さ
ん。

23年12月26日逝去、89
歳。宮城県生まれ。00年
受允、03年受按。00年よ
り横浜港南台、新横浜教
会を07年まで牧会。
遺族は妻・齋藤裕子さ
ん。

24年1月10日逝去、67
歳。愛媛県生まれ。88年
東京神学大学院大学院修
了。同年より洗足、新居
浜梅香教会を牧会。
遺族は木下啓子さん。
安藤義雄(隠退教師)

24年1月16日逝去、87
歳。東京都生まれ。56年
東京神学大学院大学院修
了。61年より聖徒、向河
原教会を牧会し、07年隠
退。
遺族は妻・安藤昭子さ
ん。
山田嘉三(隠退教師)

24年1月16日逝去、91
歳。埼玉県生まれ。57年
農村伝道神学校卒業。59
年より鶴ヶ島伝道所、川
越、埼玉和光、越生教会
を牧会し、02年隠退。
遺族は息・山田健さん。

正教師登録
高アンナ
(2023・11・26受按)
教師異動
阿久根 辞(主)竹花牧人
小山 就(担)竹花牧人
神の愛キリスト
辞(主)小池与之祐

就(代)小池正造
佐原 辞(主)三吉小祈
" 辞(担)但馬秀典
" 就(主)但馬秀典
小野 辞(代)木原貢基
" 就(代)中川憲次
布施 就(代)申英子
西宮公同辞(主)新免 貢
" 就(代)菅澤邦明
千歳丘就(代)小林美恵子
滝川二の坂
辞(代)佐藤幹雄
" 就(代)久世そらち
碑文谷辞(主)大島義孝
" 辞(担)高アンナ
" 就(主)高アンナ
教師隠退
小池与之祐、市嶋寧子
伝道所所在地変更
宜野湾
〒901-2213 宜野
湾市志真志4-24-17
ぎのわんセミナーハ
ウス402
教会所在地名変更
遠州
〒430-0938 浜松
市中央区紺屋町301
15

社会福祉施設からの声 ①

一般社団法人シャロームいしのまき《宮城県》

困難を受け止め、事業を継続

一般社団法人シャロームいしのまき(2014年設立)は、精神障がいを経験した当事者・家族・

支援者が中心となり「地元の水産加工物などの販促による地域活性化」と

「地域に新しい精神福祉の風をおこす」ミーティング・当事者研究・障害で町おこしセミナーを続けてまいりました。

2011年東日本大震災によって宮城県石巻市は最大の被災となり、漁業施設や水産加工工場は壊滅的な被害を受け、約4000名の尊い人命を失いました。2011年5月よりミーティング・当事者研究を石巻栄光教会の礼拝堂をお借りして

再開を果たしました。水産加工品などの販売は2015年度より本格的に販促を開始しました。2018年就労継続支援B型事業所へての風の事業認可を得て、障がい者の方々の働く場を拡大しました。資金繰りは厳しいところがありましたが、日本基督教団の全国各地の教会より、バザーで販売する水産加工品などの注文があり販売は安定しはじめました。教団の「社会福祉施設援助金」の助成をいただき

ました。感謝でありました。2020年1月コロナウイルス感染確認され、教会は礼拝を含め集会を取りやめることになり、水産加工品などの注文が激減してしまい経営が難しくなってきました

た。しかし、私たちは、「キリストの苦難にあずかればあずかるほど、いっそう喜びなさい。キリストの栄光が現れるときに、歓喜にあふれて喜ぶためです」(1ペテロ4・13)という言葉があるように、あらゆる苦難を、喜びのために備えられた大切な経験として生きることで、希望につながることを学ばされてきました。その意味で、私たちは、この度の困難を、次なるプロジェクトへつなげる意味ある経験として受け止め、あらたな体制で、規模を縮小して「事業の継続」をすることに

なりました。これからも地域との連携を核に、地場の製品の販路拡大、障害を持つ人たちの働く場の創出に向けて全国の諸教会、協同労働やべてる家のネットワーク、石巻に若者支援

販売商品陳列



東日本大震災関連記念行事日程

《奥羽教区》
東日本大震災 13年を覚えての礼拝
◎日時 3月10日(日)午後2時30分～
◎会場 大船渡教会、奥羽キリスト教センターチャペル
※「奥羽教区」チャンネルからYouTubeでも配信
◎メッセージ 村谷正人教師(大船渡教会)



《東北教区》
東日本大震災 13年記念礼拝
◎日時 3月11日(月)午後2時30分～
◎主会場 小高伝道所
◎説教 飯島 信牧師(小高伝道所・浪江伝道所)
◎礼拝ライブ配信
東北教区 Facebook ページより配信
※集まって参加できる教会もあります。



《公募》日独ユースミッション

◎日時 2024年8月14～26日(現地滞在、日本出国は13日、帰国は27日になる見込み)
◎募集人数 10名(年齢14～26才)
現地滞在費はドイツ側で負担、日本からの渡航費は参加者負担(一部補助あり)
◎主題 「私たちのミッションとは？」
◎主題聖句 マタイ28・18～20の御言葉に私たちはどのように応えられるだろうか
◎言語 英語(ドイツ語も可)
◎締め切り 3月10日
*申込み、詳細は下記 Web サイトを参照
<https://uccj.org/kobo-2>

